

中 北 海 道

現代俳句協会

会 報 87号

令和元年
12月3日発行

れらすべてが「春」に収斂されてゆく。季語の置かれ方が見事だと思った。

季語は動くとか動かないとか言われるが、ふと手許の角川大歳時記を開いてみる。「春」は「春の駅」「辻の春」などほと

んどのという助詞に繋がっていて、春一語で完結しているのは例句八〇句中三句のみだった。

何はともあれ山に雨山は春 飯田龍太

人は影鳥は光を曳いて春 永方裕子

平治物語絵巻のどこか春 田中裕明

ハルという二音の季語は置き方が難しい。では五音の「曼珠沙華」はどうか。例句六八句中、次の一句以外はすべて上五下五に置かれていて、改めて驚いた。

西国の畦曼珠沙華曼珠沙華 森 澄雄

それでもみな十七音に納って——ふと、あの短い一行を思う。「乳房に、西日が——」

は十三音だった。読点で切れ季語もある。もし、産み月の豚の乳房に西日差す——などと十七音にしたなら、と埒もないことを考えたり。やっぱり秋の夜は長い——。



季語の置き場所

藤 谷 和 子

「乳房に、西日が差していた」（三浦哲郎 著『野』のうち「金色の朝」より）

この書き出しの一行にどきりとしたことがある。小学生の男の子が、父に代って飼っている豚の出産に立合うという内容で、これは豚の乳房だった。それから十余年後の或る日『にれかめる』という句集が贈られてきた。著者は鈴木牛後氏。「にれかむとは牛の反芻のこと」とあとがきで知り、辞書には「齧む」とあった。

羊水ごと仔牛どるんと生れて春

巻頭の一句。十余年前の様にどきりとした。生命誕生の瞬間が、どるんという独特な擬態語を得てドキュメント映像の如くりアルに活写され、そ

令和元年度 俳句研究交流句会記

木 南 琴

R1・8・31(出)
於かである2・7

真夏の香の去らぬ、令和元年のこの日、恒例の俳句研究交流句会が開催されました。五一名の参加です。十一時の定刻、司会の原田昌克氏の軽妙な開会の言葉で始まりました。

選句用紙記入の注意点を留意しながら、参加者は一光五客の互選に集中。

その後、暫しの休憩時に五十嵐秀彦氏が、緊張を解くように室町時代へ遡った逸話を交えながら、方向性の似た人たちが垣根を取り払い俳諧の自由、そして自由と現代性の詩などの話をされました。

自己紹介では顔見知りより俳句誌上での名前見知りの方が多かったようにみられます。プリントされた選句後の用紙が配布されました。緊張のなかにも共感の顔も見られ、会は佳境に入りました。

講師者が適宜にマイクを持ち共鳴の意見が発言され、時にはベテランの俳人の方々の意

見が挟まれ、スムーズな進行と共に新たな刺激を受けました。

外は楽しい時間の終焉を知らせるように太陽が傾き、閉会は「誰が、何がの区別は俳人にとつて詮索することは愚の骨頂で、柔軟な発想と新しい試みにこれからも挑戦しましょう!」という白井千百氏の言葉で括られました。

心のひとつに溶けあった拍手が湧き上り、このような会を支えられました幹事の皆様に心より感謝申し上げます。



令和元年度 俳句研究交流句会作品

打水に舞子の歩巾きわだちて 平川 靖子

夏蝶のどこへ行こうかふと海に 安田 中彦

心電図の間合ひ乱すな夏の雨 脇本 文子

描き上ぐる「日勝」の馬夏野駆く 高垣 卯八

糸を引くピツツアのチーズ夏の果 林 冬美

落し文告白だったらどうしよう 亀松 澄江

満月や遠吠えをする動物園 伊藤 津良

呼鈴に極楽耳が笑う夏 宮下美紗子

牛乳の空壇に降る蟬の声 鹿岡真知子

雪見酒インパクトを残さない 奥野ちあき

鼻の奥ツンとする日の庭火花 多田 琴美

蝶追って花壇踏む児の眼は炎 石本 雪鬼

緑蔭の馬頭観音人知れず 上田すみ子

父母の容網戸に在るへこみ 大河原倫子

父の顔知らぬ男や虎が雨 山内俳子洞

十葉や捨てた恋こそなつかしく 阿部 満子

螢や忘れた頃にすれ違い ふじもりよしと

8 モナ・リザの微笑かなぶんぶつつかる 藤谷 和子

天高し小さくなつたあかねいろ 脇本 千尋

大向日葵どこか乾いた音がする 岡本 順子

6 炎天や臍腑は紐のようなもの 青山 酔鳴

4 気がつけば私が秋になっていた 原田 昌克

それぞれの尾骶骨かな八月来 白井 千百

百万年霧より人の歩み来し 齋藤 雅美

神様よやるならバツサリ熱帯夜 齋藤 厚子

怒り一つ踏みしめ羽化に向う少女 井尾 良子

向日葵の咲くまでの鬱抽斗に 本 ゆみ

知床や夏の刻食む鹿の群れ 藤森そにあ

沖合を走る白き帆チエーホフ忌 長野 君代

5 水中花わたしは私を生きてをり 近藤由香子

AIの回路に紛れ揚羽蝶 永野 照子

10 ゆるやかにあなたを離す花筏 齋藤 嫩子

月涼しあなたとの距離まだ遠く 中田眞知子

キャンパスに日曜の夏立ちにけり 遠藤 静江

海霧迅し今また海霧が山肌を	江草 一美
行く雁や灯油タンクに南京錠	金子真理子
釣り人の横でくつろぐ蝸牛	木南 琴
9 解体の鉄骨の嵩油照	遠藤由紀子
1 万緑の端つこにゐて足洗ふ	倉部 仁子
ツキサップと今でも言ふよ生身魂	横山いさを
3 夕焼にきれいな正座崩しけり	瀬戸優理子
2 補助輪が取れたんぽぼ野たんぽぼ野	平尾 知子
水洩れを叱られている夏である	黒田さち子
りゅうぐうの宝のこづち振りて夏	小路 裕子
ビールには純粹令の寝癖あり	廣田 和久
栗の花杳 ^{クラ} き記憶に漂着す	五十嵐秀彦
夏ライブ果つ電車の窓の曇りをり	中田 琢志
テールにジン炎昼をそそのかす	石川美智子
11 羅を今年の記憶として仕舞う	石井 美髯
ホルン吹けオーボエを吹け花の雨	霜田千代磨
わが余命急くことはなし虫の声	今堀 冷子

第29回 中北海道現代俳句大会のご案内

- 日時・場所・会費 令和2年4月5日(日) 午後1時
札幌サンプラザ 札幌市北区北24条西5丁目
TEL 011-758-3111 大会費 1,000円
 - 講演 月岡 道晴氏(歌人・國學院大學北海道短期大学部教授)
 - 演題 「北海道発・現代短歌の新風」
 - 講評 特別選者他
 - 応募規定 2句1組 1,000円 但し高校生以下は無料(4句まで)
新作未発表作品に限る 所定用紙又は200字詰原稿用紙使用
出料は作品と同封可 (協会HPからダウンロードも可)
 - 送り先 〒063-0811 札幌市西区琴似1条1丁目2-38 琴似コート614号室
金子真理子 TEL 011-644-5193
 - 締切 1月9日(木) 必着
 - 賞品 大会賞ほか
 - 懇親会 同会場で午後4時半 会費 6,000円 当日受付にて
- ※懇親会出席を取消されるときは、3日前までに連絡をお願いします。
連絡なく欠席される場合は、会費を頂戴します。
※当日は第20回中北海道現代俳句協会賞の顕彰も併せて行われます。

礎

木村敏男

略歴 大12年〜平28年。旭川生まれ。俳誌「涯」、「広軌」創刊。S53「これ」創刊主宰。北海道現代俳句協会会長、北海道俳句協会会長、現代俳句協会顧問等歴任。日本文芸家協会会員。北海道新聞文学賞、第五回鮫島賞等受賞。著書『北海道俳句史』『北の歳時記』等多数。句集『日高』『遠望』『雄心』『今生』『散華』等。うすいろのうすいろの湖虹を得し札幌のすみずみ揺れて秋さくら遠山の紺着流しに五月くる故郷へ架けて渡らず水橋眼前も眼中も昏れ冬怒濤

鈴木きみえ 抄出

〔青のフロント〕 佳句抜粋

木洩れ日の何か背筋に落つる秋

高橋 朴全

ブードルのふぐりりんりん秋夕焼

北野きのこ

人間は檸檬百個に操られ

木下 小町

どら焼きに念写のごとく栗の印

田島 八ル

幹事会報告

R1年7月18日(木) 18時 かでる2・7 530室 議題

- 第28回北海道現代俳句大会報告(事業部)
 - 6月16日終了 決算報告
 - 検討課題 作品募集期間・前夜祭の有無
- 四地区会長・事務局長会議の報告(事務局)
 - 6月16日(大会直前)実施 30周年記念に向けて
 - 本部から柏田幹事長出席 会員減少対策を提議
- 俳句研究交流句会について(組織活動部)
 - R1年8月31日(土)
 - かでる2・7 520室 会費1,000円 当番 水原帯
 - 10時半受付 16時半 終了予定
 - 当季雑詠 1句 事前投句 1光5客
- 会報 No.86(広報部)
 - 8月7日頃発行予定
 - 中現俳賞応募用紙・住所録同封
 - 発送作業お手伝い 数名依頼
- 第20回中北海道現代俳句賞募集について(組織活動部)
 - 応募規定 前年に準ずる 12月15日締切
 - 応募用紙 ホームページ他ネットに掲載
 - 選者の検討
- 三役・顧問・中現俳賞選考委員の会について(事務局)
 - 10月頃予定
 - 対象-辻協顧問・藤谷顧問・五十嵐会長・石本・亀松副会長・ふじもり事務局長・選者(横山・鈴木・永野・渡辺・石川)
- その他(事務局)
 - 会員増に向けて ・図書館俳句ポスト開始
 - 中北海道ゼロ句会の開催 7/28(日) かでる2・7 530室
 - 次年度中北海道大会について
 - 北海道俳句協会からの展示要請について

出席者〈五十嵐・石本・亀松・林・遠藤・金子・原田・鹿岡・近藤・中田・江草・青山・ふじもり 以上13名〉

R1年9月19日(木) 18時 かでる2・7 530室 議題

- 俳句研究交流句会報告(組織活動部)
 - 8月31日(土) 16時頃終了
 - 概ね順当に終了 次回担当「雪華」
- 令和2年度 総会及び新年会について(事務局)
 - 日時 R2年2月1日(土) 14時
 - 会場 すみれホテル 4F
 - 会費 5,000円
- 第20回中北海道現代俳句賞について(組織活動部)
 - 12月15日締切
 - 選考委員 三役・顧問・選者の会のあと決定
- 会報 No.87について(広報部)
 - 12月上旬発行予定
 - 「一人一句集」鑑賞の書き手について御協力依頼
 - 中現俳賞応募用紙再度同封
- 第29回中北海道現代俳句大会について(事業部)
 - R2年4月5日(日) 13時 札幌サンプラザ
 - 講演 月岡道晴氏(歌人・國學院大學北海道短期大学部教授)
 - 演題 未定
- その他
 - 三役・顧問・選者の会
 - 10月20日(日) 10時〜12時 かでる2・7 110室
 - 〔中現俳賞の選考委員の件 金子兜太ドキュメンタリー映画の件 90分〕

出席者〈五十嵐・石本・亀松・江草・原田・林・鹿岡・遠藤・青山・高島・瀬戸・ふじもり・中田・近藤・金子 以上15名〉

1頁〜2頁

横山いさを

雨が来て台風が来て地震が来て

伊藤 津良

招かれざる客を三つも、来て、来て、来てと並列させる。「米」という動詞は、「身近な所へ向って、空間的、時間的、心理的に近づくの」を、話し手の立場でとらえていう語」と古語辞典に解説されている。こちらの意向に関わりなく、勝手に来てしまうということに、この句の味わいがある。しかも、「来た」でも「来る」でもなく、「来て」という連用形が、それからどうなる?という落ち着きの無さを強調している。

沖繩忌もずくが口で意地をはる

井尾 良子

四つに割るメロンに星の句ひして

五十嵐秀彦

野菊晴れ牛が尻置く地平線

江草 一美

これらの句にも惹かれるものを感じた。

3頁〜4頁

瀬戸優理子

リラ冷や男客いる美容室

大場 榮朗

描かれているのは間違いない理解できる風景だが、読後かすかに漂う違和感。それがこの句の眼目である。美容室に男性が行くのは今や珍しくなくなつたが、改めて示されると「世界の均衡」がグラつくような心もとなさがある。「リラ冷え」の季語が持つ力である。

羊水は小さな宇宙桃の花

金子真理子

子宮内を宇宙と捉える視点はありそうだが、「羊水は」と限定・断定したこと、独自性かつ美しさが際立った。「桃の花」の色彩と可憐さは、小さな命の象徴であり、誕生への予祝でもある。

空飛んで象来て街は小六月

小路 裕子

空を飛んできた象は、空輸された円山動物園のアジア象のことだろうが、ディズニーに出てくる「ダンボ」も思わせて楽しい。口語調のリズムの良さ、句跨りで風景をどんどん展開させる叙述など、さりげない中に巧みさを感じる。

5頁〜6頁

石本 雪鬼

晩節を汚さずきたか寒北斗

黒江 鏡湖

空気が乾燥しているので星がきれいに見える冬の夜空を見て、自らが歩んできた人生を振り返っている誠実な作者がうかがえる。一步でも前進させ次世代に引き継ぎたいが、失敗でもせめて記録を残すことが最低限の次世代への誠意である。それすら危うい世相だが、努力を続けたい。

春愁や口と鉛筆とがらせる

菅井美奈子

鉛筆削りは気分転換に最適で、シャーペンシルではこうはいかない。鉛筆を削ることで自らを振り返る余裕が生まれた。その上こうした一句も授かり、次への一步に背中を押してくれ、俳句にまとめ表現できると、作者の手を離れるが他の人を励ますこともある。

トランペットの音ふくらみし麦の秋

鈴木きみえ

管楽器の中でもトランペットは、強く活気のある早いリズムが得意に思われるが、哀調のある演奏も可能で、「音ふくらみし」とより複雑な演奏への想いを言葉で表現してみせた作者。稔りの秋は音楽を楽しめる季節でもある。

7頁〜8頁

鹿岡真知子

芽が出たと葉が出たと云い年をとる

辻脇 系一

「芽が出たと葉が出たと云い」こ
までは私達が普段、何気なく言っ
ていた。見たままを口にして
いるだけ。さあ、その後どう
来るかと座五に注目して
いたら「年をとる」と来た。
ガクツと肩透かしを食った感
じ。

しかし、これが真の人の生命とい
うものだろう。人は生まれた時
から年をとる。動かすことの
出来ない真実を正面から受け
止めながら自然体の作者の
姿が見える。

日雷向かいの女のつけ睫

中田真知子

晴れているのに鳴る「日雷」と一
向かいの女のつけ睫の多さ、長
さにビツクリしている作者。
ビツクリで繋がる取り合
わせの句。面白い。

十一月やさしい言葉から枯れる

原田 昌克

「十一月」を想定したら、枯木、
枯れ葉。しかし、作者は「やさ
しい言葉」を添える。確かに
十一月は師走に向かい忙し
くなる季節。言葉も自然と尖
つてしまう。この状態を作者
は冷静な眼で見ている。

9頁〜11頁

五十嵐秀彦

もういちど人間もういちど桜

古川かず江

この桜は前世に人であったの
からもしれない。咲き誇る桜
を見上げたのが作者はふと
そう思った。では私は……。
桜だったときの記憶が一瞬
自分の中に過るように感じ
た。あの世とこの世を往還
する思いがこの一句となっ
た。

個人差は歩幅にもある冬夕焼

村上 海斗

冬の夕方、友人たちと歩いて
いる。雪道に映る影を眺め
ながら、歩幅はそれぞれだ
な、とあらためて思う。歩
幅が違うように、ひとりひとり
個性が違うのに、こうして
一緒にいるのが可笑しいの
だった。夕焼けが雪道を
を紅く染めてゆく。

湿原の闇祓いたる根雪かな

脇本 文子

雪の季節となる前の湿原は
枯れて暗い。雪が降り続け、
それが根雪となる。とき
冬の湿原の闇に潜んでいた
魔が祓われたように感じら
れたのだ。雪はいのちの
営みをいったん仮死にして
しまいう過酷なものだが、
一方で邪を祓う力もあるの
かもしれない。

第20回 中北海道現代俳句賞 作品募集

応募要領

- 1 応募作品 30句（必ず題名をつける）
未発表・既発表を問わず30句 ただし既発表句は2019年1
月以降の発表作品に限ります 過去の応募作品の再応募は不
可といたします（会員以外の方も応募できます）
 - 2 募集期限 2019年12月15日消印まで
 - 3 募集地域 石狩・空知・後志振興局管内にお住まいの方
 - 4 応募用紙 指定の用紙を使用 会員には会報86・87号に同封・会員以外の方は
顕賞係へ返信用封筒に切手貼付のうえ指定の用紙を請求して下さ
い 〒住所・氏名明記 協会HPからダウンロードも可
 - 5 応募方法 応募料3000円（定額小替為、または現金書留にて）
 - 6 顕彰 2020年4月の中北海道現代俳句大会
 - 7 作品送付 〒069-0237 空知郡南幌町栄町1-1-12 武田方
中北海道現代俳句協会 組織活動部 瀬戸優理子 宛
- 選者 五十嵐秀彦・横山いさを・鈴木きみえ・永野照子・渡辺のり子
石川美智子・松王かをりの7氏
- 問合せ先 顕彰係 瀬戸優理子 TEL 090-2810-8015

◆事務局たより

十月二〇日に三役・顧問・選者の会を開催し、今年度十月までの活動を報告した。今回の主要な議題としては長年当協会長、役員など歴任された、事業の拡大発展に寄与していただいた辻脇一前会長（現顧問・選者）が御勇退の為、新たな選者の選任について各位のご意見を伺った。新選者として松王かをり氏が推挙され、十一月の幹事会で承認を受けて、本年度より中現俳賞の選考にあたっていただくこととなった。

十月十三日に「水原帯」の大会に出席した。当協会の発足時より密接な関係を持った結社であったが本年十二月で終刊の報告があり非常に残念である。十一月二三日東京にて今年度の現代俳句大会が開催された。当協会から五十嵐中北海道は例年主要な賞の受賞者を出しており大変名誉なことである。

令和2年度
総会及び新年会

- ・日時 令和2年2月1日(土) 14時
- ・会場 札幌すみれホテル 4F すずらん
- ・会費 5,000円

令和2年度 北海道現代俳句大会

- ・日時 6月14日(日)
- ・会場 ホテル リソル函館

会 員 動 向

〈入 会〉

〈退 会〉

〈住所変更〉

会員数 127名
(R1年9月19日現在)

会費納入のお願い

本年度からは振込手数料を会員の皆様にご負担願うことに致しました。宜しく願います。

口座番号 02780-9-48961
中北海道現代俳句協会

発行人 五十嵐 秀彦
発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007
札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18
ふじもりよしと方

編集人 江草 一美
〒003-0838 TEL 011-874-3049
札幌市白石区北郷8条3丁目
6-36-703

青山 酔鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457
恵庭市島松旭町4丁目9-1 早川方

編集後記

「ご飯は食べてきたか？」と女将・末岡睦さんの張りのある声が訊く。「今日お膳を頂いたのはもう三〇年近く前のこと。地獄坂のはもう三〇年近く前のこと。地獄坂の「すえおか」は、わたしにとつては少し背伸びをして入る居酒屋。北のウォール街・小樽の政治はここで決まると云われ小樽の平成二五年「地獄坂文学資料館」にリニューアル、多くの文人との交流の品々など「実」などを活動の場に前衛俳句の時代の真只中を駆抜けた俳人である。一昨年、小樽文学館のミニコンサートで再会した際に、現俳の退会をお考えと伺った。昨年の一人一句集や大会投句は頂けたものの今年は返信が無く、案じた矢先の訃報であった。サンピラー天孫降臨前前前世 末岡睦

『潮見台』（シララ社）は睦さんとモ

ノタイプ版画の巨匠一原有徳氏・向山毅（社八郎）氏との三人句集。一原版画が多用された凝った装丁である。機会があれば手にとってほしい。当会がバックアップする「中北海道ゼロ句会」は第一回を七月に開催。札幌西高校の文芸部員など若手の集まる良い句会となった。今後は他校生徒や大学生の増加を図り、年三回を目途に継続できるよう応援したい。音無君・村上君の奮闘に感謝するとともに、次の世代にも繋がっていくことを願ってやまない。（酔鳴）

「ラグビーの頬傷はてる海見れば」（寺山修治）この秋、にわかラグビーファンになったのは私だけではあるまい。来年はオリンピック、パラリンピックに湧くことだろう。一句でも作りたいものであるが……。

今年もあと僅か。皆様良いお歳を!!
(江草)